

第 609 回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

「フリートーク」



平成 27 年 7 月 29 日

BSn新潟放送

第609回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成27年7月29日(水)午前11:00~

2. 開催場所 ホテル イタリア軒 5F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	松川公敏	副委員長	相羽利子
委員	高井盛雄	委員	古賀豊
委員	正道かほる	委員	小島良子
委員	佐々木広介	委員	細田康

○委員側欠席者

委員	佐藤元	委員	佐藤明
----	-----	----	-----

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
営業局長	斎藤和利	編成局長	島田好久
報道制作局長	太田志信	ラジオ本部長	高坂元己

事務局

事務局長	増山由美子(広報部長)
事務局員	丹羽崇(社長室長)

4. 議題 1. 報告事項 「8月・9月の新番組・単発番組」報告

2. 審議事項 「フリートーキング」

この半年間(1~6月)にB S Nで放送した番組について
および放送全般について

5. 議事の概要

各局長からの8・9月度番組報告に続いて、審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

○ T B S ドラマ「ホテルコンシェルジュ」や「ナポレオンの村」を見てみた。最近、テ

レビを見ていて感じるのは、昔のドラマは善と悪がはっきりしていた。今は正反対で正義と悪の境界線がよく分からず、バラエティも人の欠点を笑いに変えたりと、学校や社会の縮図のようだ。

- 家族みんなで日曜日は朝から、火曜日と土曜日は夜ずっとTBSの番組を見ている。たとえば「マツコの知らない世界」の流れで「ホテルコンシェルジュ」を見ている。以前はそのドラマが見たいから見ていたが、今は前の番組の流れで見ている。また、平日朝の情報番組はキャスターやコメンテーターの人柄を基準に見ている。TBSについては曜日別に芸人がゲスト出演しているが、以前より軽い雰囲気に思える。報道や情報の番組は、ある程度「重さ」が必要だと思う。「サンデーモーニング」は少し重い感じ、「サンデージャポン」は少し軽い感じで、飽きずに見ることができる。以前は家族全員でお腹をかかえて笑える番組があった。今は子供がテレビではなくインターネットに接触している。子供が将来について学べるような番組、子供が見たくなる番組をどんどん作ってほしい。
- 情報番組として「あさチャン！」MCの夏目三久さんはとても良い、好感が持てる。「ひるおび！」もゲストの解説が市民目線にあわせていて、すっと耳に入ってくる。TBSの情報番組はトーン、バランスが良いものが多い。報道番組では「ニュース23」、「報道特集」は極めて冷静な報道、良識ある報道。また、「夢の扉」はドラマ「ナポレオンの村」とコラボした形でスーパー公務員を紹介、今日的なテーマで相変わらず良かった。「所さんのニッポンの出番」、「マツコの知らない世界」はそれぞれMCの個性は違うが構成がしっかりしていて面白い。
- 「ひるおび！」はMCの恵が偏らない立場で解説していて良い。「ニュース23」「サンデーモーニング」はどちらも岸井さんが出演していて、統一感がある。「報道特集」は子供のころから見ているが、もっと遅い時間に放送したほうが見やすくなるのではないか。ドラマは「天皇の料理番」「ナポレオンの村」が印象に残る。「マツコの知らない世界」から発信してヒットした商品もあるが、流行を追いかけているだけでなく、良い番組。
- 報道番組について、テレビ全体がどういう話題を伝えているか注意して見てみた。「ニュース23」は非常に硬派な番組だが、視聴率が気になる。情報番組はTBSに限らず、コメンテーターの位置づけが視聴者代表なのか、直接、取材をしていないのにコメントしているので、立場を整理したほうが良い。一方、ローカル番組は「人（出演者の顔ぶれ）」で見ている視聴者が多いと思うので、同じアナウンサーが長く担当する方が良いと思う。BSNは新潟を代表する局として自社制作番組枠をしっかり確保していて素晴らしい。今後、見逃し配信など番組のネット配信化が進むと思うが、テレビの強みは生放送なのに、昔に比べて生放送枠が少ない。野球中継が減った影響か。
- ドrama「天皇の料理番」は一回ごとに山場があり、良かった。「表参道高校合唱部」については一生懸命な高校生たちが成長していく姿を子供達に見てほしい。また、公職

選挙法改正で選挙権年齢が引き下げられ、主権者教育をどうしていくか課題だが、若者には日頃から様々な社会の出来事に興味を持つてほしいと思うので、そういった層を意識した番組作りを進めてほしい。特に若者が真面目に議論を戦わせる番組を増やしてほしい。

- 私の周りで最近、「ニュース23」の評判が良い。他局を見て、皮膚感覚と報道内容に乖離があり、おかしいと感じることがあるが、「23」は市民感覚、バランス感覚がある。また、BSNの自社制作番組は毎回、番組審議会で審議させていただくが、どの作品も完成度が上がっている。古い資料を取り入れて分かりやすく、奥行きある番組に仕上がっている。
- 今のテレビは情報番組と報道番組の峻別が明確にできていない。TBSの場合、情報は「生活」情報番組というランク付けが、また、報道は報道番組とドキュメンタリー番組のすみ分けが始まっているが、両方のジャンルに重なる番組が出てきている。人はメディアに接して、影響をうけながら自分の意見を持つようになる。それだけに、マスメディアの存在は大きく、公平な報道が大事であり、今まで以上に国民に信頼される情報提供に努めてほしい。テレビに対するイメージの悪化がテレビ離れの一因でもある。また、番組の質の低下がテレビ離れの一因でもある。そして、パターン化、個性がない。テレビの魅力は、希望、夢、挑戦、を視聴者に与えること。それが番組が長く続く秘訣と考える。BSNの自社制作番組は創立60周年に制作された特別番組「新潟遺産」からすごく充実していると思う。さらに、今年度の自社制作番組は質が向上していて、番組審議会の評価が高い。「水曜見ナイト」は新潟放送の看板番組としての地位を固めつつある。一時期は内容がグルメ志向になっていないかとの指摘もあったが、視聴者の嗜好と合致して、視聴率が高いのであればその線でいくのも良いと思うが、よほど内容を考えないと、いずれマンネリ化してしまう。

～新潟放送・竹石松次代表取締役社長から～

貴重なご意見をお寄せ頂き、ありがとうございます。

- テレビラジオを放送する上で、今の時代をどう切り開いていくか、日常的に検討しているが、マンネリに陥ることで、テレビ離れ・ラジオ離れにつながっているとしたら、また、テレビラジオ以上にインターネットメディアの魅力が高まっているとすれば、どう打破したら良いのか考えなければならない。起死回生のヒットを打ち出すためには、TBSはもちろん、ローカル局として、今秋から放送する新潟偉人伝や水曜見ナイト、ラジオ番組のFM放送に一層取り組んでいきたい。我々メディアが夢・希望・挑戦を忘れず、今日のご意見を今後の番組制作に生かしていきたい。